

奈弓連だより

通巻 245号

令和4年7月号

発行 奈良県弓道連盟

会長 西中 正

編集担当 松澤和実 中西省五

連絡先：henshu@narakyudo.jp

令和4年度第1回伝達講習会

立射礼も取り入れ、学び多き講習会に

令和4年6月26日(日)、橿原公苑弓道場において標記講習会が開催されました。講師は5月14日・15日の両日に開催されました近畿地区指導者講習会(於：ロート奈良弓道場)に参加された先生方の中から、藤岡順先生、吉本清巳先生、松村由喜子先生、白井礼子先生の4名が務めてくださいました。3年ぶりとなる伝達講習会は午前(25名)・午後(24名)に分けての実施で、普段は行われることの少ない立射礼も取り入れたプログラムで実施され、時折熱中症アラームが鳴る中、県内の称号者が熱心に研鑽する姿がありました。全弓連からの資料に基づき説明があった事項の概要については次のとおりです。

①弓道について

- ・体配の指導は、隙を作らず武道としてふさわしい立ち居振る舞いができるように指導して欲しい。
- ・射技の指導は「体で離れを生む」指導をして欲しい。要は体の中にバネを作り、伸び合いによって離れを生み出していく射。
- ・指導者は受講者など一対一の人間として向かい合う。自分に合った弓を探して試行錯誤を繰り返し、失敗しながらそれを教訓として前に進むもの。それを見守り大きく育つように導くことを目標にする。
- ・自分の経験を通してその言葉を自分の体で消化してから指導して欲しい。

②コンプライアンス(ハラスメント関係)

- ・弓道関係者一人一人が常日頃から時代の変化に応じた問題意識を持ち、お互いの考え方等の違いを理解して認め合う多様性の感覚を磨くことが必要。
- ・自分の言動が、指導を受ける者や第三者にストレスを与えていないかに注意して行動するとともに、周囲の弓道関係者とも情報共有や議論を行うよう心掛け、仮に問題行動について他人から指摘を受けたときには真摯な気持ちでこれを受け止める心構えが重要。

③コンプライアンス(矢羽関係)

- ・一人一人が常にコンプライアンスを意識して行動。
- ・自然保護・環境保護に関する意識や理解を深め、疑わしい取引には関与しないように注意する。疑わしい取引を見聞きした場合には周囲の弓道関係者に注意を喚起するなど、法令遵守の意識を強く持つ(インターネットの出所不明な矢には手を出さない等)

④公益法人について

- ・公益法人の構成員は、お互いの考え方の違いを理解して認め合う多様性等についてしっかりと認識し、各人が社会貢献を強く意識して活動しなくてはならない。
- ・称号者は我が国の伝統武道である弓道の高い文化性を維持・継承しつつ普及・発展を意識することだけでなく、公益に寄与する観点から、高い倫理観と、人間としての社会的道義の認識を持つことを自覚。

⑤自然・環境保護憲章の制定について

- ・自然環境保護への新たな決意と基本的な姿勢を示すものとして制定(各道場にも掲示)
詳細について紙面で表現することは困難ですので、それぞれの道場において伝達を受けていただければと思います。

西中会長の挨拶にもありましたが、立射礼は決まり事こそ多くないものの、どのようにすれば美しく見えるかといった配慮が必要とされる部分は多くあり、普段の射礼以上に息合いや動作を意識する場面が多くありました。一手2回と矢数は決して多くありませんでしたが、伝達事項だけでなく、指導者としてのあり方、自身の修練のあり方、弓道を将来へ伝承していく視点など、非常に学び多き講習会でした。講習会でも触れられた「心の持ち方」にもあったように、自分自身をしつけることは生やさしいことではありませんが、今一度よく考え、百錬自得の精神で弓道と向き合いたいと思います。暑い中ご指導をいただきました先生方に、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

(指導部 大西洋亮)

昇段おめでとうございます

7月地連審査会において次の方々が昇段されました。(7月10日開催 於：橿原公苑弓道場)

四段

清水 美千代さん (郡山支部)
森尾 和美さん (橿原支部)
恒成 隆一さん (錬弓会)

おめでとうございます。(事務局)

令和4年度第1回地連審査(橿原)

中高生もビデオ審査から5人立の審査に

7月10日(日) 橿原公苑弓道場に於いて、審査会が行われました。

今年度より中高生のビデオ審査が通常の五人立ち審査に戻り、中高生も一般と一緒に審査会に参加することになりました。昨年に引き続きコロナ対策は必要で、運営も密を避け、受付はグループごとに時間帯を決めて行いました。開会式・矢渡しもなく、合格発表も後日で、行射後は速やかに帰宅していただきました。学科審査も昨年と同様にレポート形式で、審査申込書に添えて提出することになっております。尚、審査申込書が改正されています。新しいものを使用するようお願いいたします。

今年度よりホームページに審査要項、日程表、結果(立ち番のみ)が掲載されています。

今回の審査会では、立射の受審者が多人数ありました。これからも立射は増えると考えられます。立射の作法も学ぶ必要があります。また、立射の受審者は理由を明確に記入して下さい。

また、遅刻や弓具の準備不足の場面がありました。平常心で審査を受けるためにも、すべての備えを怠らないようにしましょう。

審査結果は次の通りです。

級位	受審者 41名	1級査定 25名、2級査定 9名 3級査定 1名、現級 6名
初段	受審者 23名	合格者 18名
弐段	受審者 12名	合格者 7名
参段	受審者 13名	合格者 2名
四段	受審者 15名	合格者 3名
以上		

(審査部 松村由喜子)

国民体育大会・奈良県代表の最終選考会 成年男女、少年男女の代表が決定

7月10日(日)に橿原公苑弓道場・庭球場において第77回国民体育大会の最終選考会が開催されました。新型コロナウイルスの影響で、2年連続で国体が中止となっている状況ですが、今年こそは開催されることを願っています。選考の結果、選手3名、補欠2名が下記の通り選ばれました。

成年男子

選手：奥田章人(橿原)、松本雄介(奈良)、
瀬戸雅弘(生駒)

補欠：吉里晃秀(香芝)、原田雄介(橿原)

成年女子

選手：前川なつき(橿原)、土谷ひろみ(奈良)、
八木純子(錬弓会)

補欠：多田昌世(奈良)、小代敦子(橿原)



前列：成年女子、後列：成年男子

(強化部 長濱正伸)

少年の部 男子

横田陽斗(法隆寺国際)

荒木 快(桜井)

島本歩暉(高田商業)

竹林夕騎(五條)

森下忠慶(桜井)

女子

安部美玖音(西の京)

前田 紫(橿原)

神谷陽里(西の京)

金澤由乃(桜井)

吉田望愛(五條)



前列：少年女子、後列：少年男子

(高体連 布施慈人)

**第 55 回近畿地区高等専門学校弓道大会
準優勝の奈良高専男子団体、女子団体と
個人女子 2 名が 9 月の全国大会出場へ**

6 月 26 日（日）に京都府の綾部市総合運動公園弓道場において標題の大会が開催されました。

<団体戦>

男子 準優勝

大野悠翔、松生天真、林瑛人、城戸陽人、飯田琢也

女子 準優勝

福王彩音、西井想来、山田怜奈

優勝が全国大会主管校の神戸市立高専のため、繰り上がりで全国大会出場権獲得しました。

<個人戦>

女子 優勝 3 年 溝江由麻

女子 準優勝 4 年 中村伊吹

全国大会出場権獲得

9 月 2 日に兵庫県立弓道場で開催される第 9 回全国高等専門学校弓道大会に出場いたします。応援よろしく願いいたします。

また、来年の近畿予選会は奈良高専が主幹となります。県連の皆様のご協力をお願い申し上げます。

（奈良高専 谷口幸典）

第 73 回奈良県民体育大会

3 年ぶりに一同に会して

7 月 3 日（日）、県立橿原公苑弓道場に於いて、第 73 回奈良県民体育大会が行われました。当日は悪天候のため、遠的競技は行わず市郡対抗戦は近的競技 12 射（坐射 2 回立射 1 回）、公開競技は近的 8 射（坐射 2 回）に変更して行われました。

3 年ぶりの開催で、市郡対抗戦男子 10 チーム 30 名、女子 8 チーム 24 名。公開競技男子 9 名、女子 15 名の参加となりました。

結果は、以下の通りです。

市郡対抗戦男子 団体

1 位 大和郡山市（監督 山野幸夫）

前角 博・高橋悟史・藤岡 順

2 位 橿原市（監督 衛藤博史）

西田友樹・米田朋矢・原田祐介

3 位 香芝市（監督 竹村邦夫）

辻本元威・吉里晃秀・岡 雅佳

市郡対抗戦女子 団体

1 位 奈良市（監督 深田紀美子）

松澤和実・藤森康恵・西田ゆり

2 位 大和郡山市（監督 釜谷和恵）

勝田さや佳・西井想来・江浦至希子

3 位 橿原市（監督 東中千佳）

前川なつき・原田温美・長濱有美



男子団体 1 位 大和郡山市



女子団体 1 位 奈良市



前列 2 位、後列 3 位



市郡対抗戦個人 男子

1 位 中山誠一郎（奈良市）

2 位 辻本元威（香芝市）

3 位 西田友樹（橿原市）

女子

藤森康恵（奈良市）

西井想来（大和郡山市）

平野雅奈（生駒市）



左から
2 位、1 位、3 位

公開競技（個人）男子

1 位 塩田歩世（奈良）

2 位 高木政彦（奈良）

3 位 西尾義輝（錬弓会）

女子

黒見博子（橿原）

小代敦子（橿原）

梅崎康代（錬弓会）



左から
2 位、1 位、3 位

（競技部 奥田章人）

令和4年 奈良県教職員弓道大会

現役・OB・OG 問わず集う

7月2日（土）橿原公苑弓道場にて標記大会を開催しました。猛暑の中、休憩をはさみながら坐射による一手5回の計10射で競いました。参加者は18名でしたが、久しぶりの大会で楽しく時を過ごすことができ、午前中で大会を終え、午後からの教職員向け伝達講習会へとつなぎました。

結果は以下の通りです（敬称略）。

男子の部

優勝	高岡 信	(OB)	8中	(競射による)
2位	奥田章人	(鴨公小)	8中	
3位	西浦範光	(OB)	6中	

女子の部

優勝	小野夏穂	(榛生昇陽)	6中	
2位	小西徳子	(OG)	4中	(遠近による)
3位	清水美千代	(OG)	4中	



入賞者の皆さん

(土谷尚敬)

第2回伝達講習会(学校指導者)

未来を担う人材育成、少数ながら充実したものに

教職員大会終了後の7月2日（土）午後開催されました。参加人数は6名。講師は、藤岡順先生、松村由喜子先生、白井礼子先生、澤一彦先生（5月の地区指導者講習会参加者）の4名が務められました。西中会長からは、「スポーツ指導員や公認資格を持ち、運営に携わったり、国体の監督になったりして欲しい。今の有資格者は10年後の奈良国体の時には30数名ほどになり、大幅に減ってしまうことを懸念しています。ぜひ、先生方も審査を受ける、講習会に参加する等積極的に関わってってください。」とのお話がありました。



伝達講習会の内容は第1回目と同内容が説明されました。

一手行射（3人立）では入退場の体配の再確認が必要との講評があり、その後各講師から射技指導を受けました。



執り弓の姿勢を再確認

また、審査や講習会などで見た、講師から気になる所の説明や、受講生からの質問に答えるなど、実践的な話ことができました。以下に一部を掲載します。

- ・執り弓の姿勢や礼の対象の確認。教本1巻から逸脱しないような体配を行ってほしい。
- ・足踏みの角度と、足踏みの幅と矢束の幅（ほぼ同じになる）
- ・筈と中仕掛けについて
番えて、弓だけを持って矢をぶら下げ、振っても落ちないくらいしっかりと作ってほしい。
- ・番える場所
弓に対して矢を垂直に当てた時の弦との交点より筈1個分ほど上に番える。押し手の親指(矢枕)を矢で擦って怪我をするのを防止できる。ただし会に入った時に籐頭に矢がくるように。
- ・肥の高さ
狭くなると手を払う。高すぎると筈を押す時間が短いので失速する。
- ・審査について
今年から5人立に戻るが、今の先輩たちも知らない部分である。退場の仕方も練習してほしい。
その他にも弓の弦通りの見方や弦音はどこで鳴るのか等、色々と興味深い話ができ、数名で仕上げの行射を行い終了となりました。

(指導部 松澤和実)

編 | 集 | 後 | 記

第1回、第2回の伝達講習会がありました。「お互いの考え方の違いを理解して認め合う多様性等についてしっかりと認識する」「高い倫理観と、人間としての社会的道義の認識を持つことを自覚する」など、弓道に関わるうえで改めて考えなければいけないと思いました。

(編集担当 中西省五)